

令和元年1月11日

独立行政法人家畜改良センター
理事長 入江 正和 殿

独立行政法人家畜改良センターにおける動物実験実施状況等に係る自己点検・評価
に対する検証結果について

令和元年10月4日に動物実験実施状況等に関する自己点検・評価に対する検証において、
独立行政法人家畜改良センターにおける動物実験実施状況等に係る自己点検・評価（平成30
年度分）について検証を行いましたので、結果を下記のとおり報告します。

麻布大学 獣医学部
教 授 柏崎 直巳
(国研)農研機構 東北農業研究センター
畜産飼料作研究領域長 下司 雅也

記

動物実験の実施については、昨年度の検証結果における指摘事項に対応して改善がなされて
おり良好に運営されているが、平成30年度の実施状況等においては以下のとおり改善すべき
点がある。

1. 平成30年度動物実験委員会名簿において、「③その他学識経験を有する者」の役割を担う
委員がいない。①から③の各役割に、最低1名は対応させる必要がある。
2. 計画書において、供用個体数の根拠の記載がないもの、記載はあっても不十分なものが認められる。「年間計画から算出した調査豚の頭数」、「9頭に移植する計画となっている」、「別紙
調査研究平成30年度計画書のとおり(別紙がないので根拠が不明)」等では、根拠とならない。
動物福祉や供用個体数削減の観点から、なぜその頭数を供用する必要があるのか(統計解析の
ために○頭必要なため等)を明確に示す必要がある。
3. 動物実験報告書について
「供用動物数」において動物実験計画と実施頭数が異なる場合、その理由を記載した「変更届」
を提出し、動物実験委員会委員長・理事長へ報告すること。また、動物実験計画には予備実験
等で根拠に基づいた供用動物数を記載に努めること

以上